

## 研究成果報告書

研究課題名：中国における留守児童に関する研究

お名前：陳媛

ご所属：政策・メディア研究科

### 1. 研究成果概要

去年の12月～今年1月、お正月の休みを取って、中国の農村部でアンケート調査とインタビュー調査を行いました。

今回調査した地域は江西省と湖北省です。江西省全省の留守児童数は258万人、私の調査した地域は六千人弱、この中で、両親とも離れているのは93%、祖父祖母で扱ってもらう比率は80%、13%の留守児童は一人か兄弟と暮らしていることが分かりました。この中で、89%の留守児童は学校に通っています、11%の子供は農業が貧乏のため、教育を受けられないです。

旧正月で帰省する九江学院（江西省九江市）の若手教員に、それぞれの出身村で調査票に基づいた農家調査を依頼した。この調査は社会調査の手順に則って対象村・農家を無作為に抽出したわけではなかったが、結果的に調査からの一次データで中部地域における農家人口の基本構造や農家の労働、利用の姿をある程度浮かび上がらせることができています。

### 2. 研究背景

2010年の国勢調査結果によると、現在の日本では三世帯世帯が一般世帯に占める割合は7%に止まっている。夫婦と子供からなる世帯の割合も1975年42.5%から2010年27.9%へと低下し続けており、家族形態の多様化はもはや核家族を典型とはせず、夫婦のみ世帯並びに大都市を中心とした高齢者および若者の単身世帯の増加が平均世帯規模の縮小をもたらしている。このような状況の下で、人々の生活は、家族を分散させ住居を別にしつつ、交通通信網を駆使してネットワークとしての居住状態をつくりだしている。一方、現在の中国では、大都市や沿岸部を中心に経済が高度成長を遂げており、それに伴って地方中小都市と農山村地域から豊かな就労チャンスを得るために、子供を残して夫婦で渡り鳥のように大都市に移動する人々が増加している。その結果、故郷に残る出稼ぎ労働者の子どもは増加の一途を辿っており、祖父母と暮らす「留守児童」問題は大きな社会問題になっている。2009年2月26日北京発新華社電によると、中国の農村には、留守児童が全国に約5800万人おり、うち4000万人以上が14歳以下の児童だった。特に四川省、安徽省、河南省など相対的に貧困世帯の割合が高い地域では、家を建てることや子供の教育費などのために故郷を離れて都市へ出稼ぎに行かなければならないケースが多く、留守児童問題が深刻である。しかも、その状況は改善される傾向にはない。2012年11月貴州省でゴミ箱の中で暖を取っていた子ども5人が、一酸化炭素中毒で亡くなった。その後、死亡した子ども達は親と離れて暮らす留守児童とわかり、中国のマスコミが大きく取り上げた。残してきた子どもを心配する親たちの声を受けて、農村部の学校では、留守児童を支えようと精神的なケアに乗り出す、試みも始まっている。現在の中国と日本の状況は大きく異なるものの、空間的に離散しながら親族関係をベースに居住を成立させる「ネットワーク居住」という考え方は、留守児童問題の解決や緩和を考える際に新たな視点を提供するものと考えられ、「中国における留守児童とネットワーク居住」をテーマに研

究をしたいと考えている。

### 3. 研究の目的

中国経済の急成長により引き起こされる数々のひずみの1つが出稼ぎ労働者の子供たち「留守児童」だ。去年11月に貴州省では、10歳前後のホームレス5人が街中のゴミ箱の中で死亡した。全員が「留守児童」だった。両親が出稼ぎで働き、農村で祖父母や親戚の元に預けられたまま育つ子供「留守児童」は、中国全土で6,000万人近くいるといわれている。中国経済の成長を支えている出稼ぎ労働者の背後で、残された「留守児童」たちは、満足な食事も教育も受けられず、成長期も親不在で社会性や心理面に大きな影響が懸念されている。留守児童から路上生活、そして犯罪に手を染めてしまうケースも少なくない。現在、中国の出稼ぎ労働者は約2億6,300万人で、その数は増え続けている。貧困の連鎖は今後も続くとみられ、この厳しい状況に注目しなければならない。その問題が発生した大きい原因の一つは、地方中小都市と農山村地域の親世帯が豊かな就労チャンスを得るために渡り鳥のように大都市に飛び去って、子どものそばにいられず、子どもの世話ができないことである。しかし、一方で同じ状況のなかでも健全に育つ子供もいる。本研究では、留守児童の実態を把握し、その問題を明らかにするとともに、困難な状況をどのように克服しているかという点にも着目する。つまり、祖父母、親、子供、親戚といった親族ネットワークのなかで、分散して居住していても居住の一体性を少しでも確保しようという「ネットワーク居住」がどのように展開されているのかを明らかにし、留守児童問題の解決に資する提案につなげていくことを目的とする。

### 4. 研究方法

本研究は上海から遠く西へ、中国内陸部・江西省の農村部を対象とする、その留守児童の数は300万人以上と言われている。江西省は自分の故郷であり、適切な事例を収集しやすい。先行研究を参考にした上で、留守児童のネットワーク居住実態に明らかにする。具体的には、江西省の農村部の小学校でアンケート調査を行うとともに、学校の先生の対面聞き取り調査を行う。また、アンケート調査をもとに典型的な事例を選択し、祖父母や親族のインタビューを行うとともに、親の就業地においてもインタビュー調査を行う。

### 5. 研究の意義・特徴

留守児童の問題は、単なる一つの家庭の問題ではなく、社会的問題である。5800万人の留守児童の背後には、都市部に出稼ぎに向かう2億人以上の「流動人口」がある。両親は都市部に流れ、子供は家に残される。留守児童の安全問題は、両親と共に生活できるかといった問題にとどまらない。留守児童の教育問題もまた、教科書や机のみによって解決できる問題でもない。留守児童への注目は、子供に対する関心のみにとどまるべきではなく、この親子・親族の居住形態に対する関心まで押し広げるべきなのだ。調査によると、留守児童の親の中で、平均1週間に1回子供と連絡を取っているのが16.2%、1カ月に1回が10.8%、不定期が29.7%で、43.3%はほとんど連絡をとっていない。子どもたちは、親との感情が希薄になり、自分の居場所がない状況になっている。その結果、子どもが将来の社会で、人との接触や付き合いなどに悪い影響を与える可能性がある。親たちのなかには子どもの教育に関心を示さず、教育重視の姿勢が大変弱いケースもある。一方、できる限り金銭的かまた物質的か、どちらの要求を満足させれば、親の義務・責任を果たしたと考える親もいる。子どもが毎日不

安感で、いろいろなストレスを持っていることを考えず、物質的なことを与えられるだけで、子どもの心は満たされないことに気付かないケースである。現在、「留守児童」の中に、祖父母と一緒に同居の人がいる。しかし、祖父母が高齢である場合、その子供たちは時々家事を手伝わなければいけない。また、祖父母たちは教育レベルが低く、特に、祖母は教育を受けていない人もいる。多くの祖父母は子どもに対する教育の仕方や時代の進歩に十分適応していないという現実がある。親戚の家に住んでいる留守児童もおり、時々親戚に差別されることがある。それにしても、彼らはずっと我慢してあるいは自分の悩みと悲しみを日記の中で書くことしかできない。今、多くの人や政府などが「留守児童」問題を重視している。しかし、内陸部と沿岸部・大都市との経済格差が解消されない限り、就労のための移動が減少することはなく、留守児童の問題の解決も困難である。本研究は、こうしたマクロ的な状況が持続するとしても、その中で問題解決を図る方策を検討することが重要であるという立場をとり、人々の行動の中からそのヒントを見出そうとするものである。親を思う子供の気持ちや、子供を思う親の気持ちは中国も、日本も、世界も変わりがないが、自分達の生活を支えるために親子が離ればなれにならなければならない現状には、心が痛む。自分が自分の力で、この現状の調査を行って、留守児童の生活現状と意思もインタビューを通して問題とその厳しさを論述して、その対応の提案も自分が発想してみたい。その際に、人々が実践しているネットワーク居住の工夫に着目し、そこから提案を導こうとする点が本研究の特徴であると言える。自分の研究を通して、この問題が少しでも関連する政府機関と地域社会に重視されて、改善に役立てば、本研究は意義あるものとなるだろう。